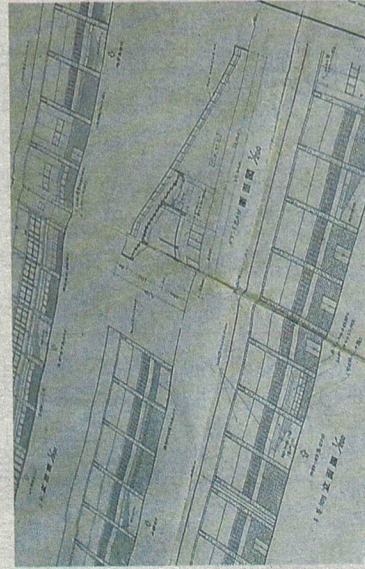


ロープを使った木登り「ツリークライミング」を楽しむ子どもたち



「西鉄ライオンズの軌跡展」で初めて公開される平和台球場の設計図(撮影・峠地光平)

ライオンズ70周年 足跡たどる

プロ野球西鉄ライオンズの設立70周年を記念する「西鉄ライオンズの軌跡展」が8月7、8日、福岡市中央区大名の西鉄ランドホテルで開かれる。日本シリーズの優勝旗やトロフィーのほか、本拠地とした平和台球場の設計図などを展示し、地元ファンに愛された球団の足跡をたどる。回展の開催は4月に続き2

球場の設計図展示や元投手トークショー

来月7、8日福岡市で

度。今回の巨匠は、88年であった平和台球場の設計図の原図の倉庫から見つかった。一般公開は初めて、スタジアムやホテルの様子が詳細に記されており、年に取り壊された同球団の足跡がよみがえる。8日午後2時から、元投手の安部和春氏を招

子どもたちと一緒に木に登る。木々と友達になるための「儀式」である。見上げる。四方八方に伸びた枝、うつろいと変る葉。凛然たる生命力を感じずにはいられない。コロナ禍で野外活動が注目される中、

行った見た撮った

ロープ使って木登り

目の前に高さ約15mのシイの木がそびえる。「福岡YMCA」の小学主人と一緒に挑む木である。主に福岡県で開かれる、ツリークライミング体験会「インスタクワン」を務めている筋田晃司さん(37)から指導を仰いだ。丈夫な枝の隙間からつるした専用ロープにある金具と腰に装着したサドル(安全帯)をつなぐ。「腕力ではなく

足の方で登ります」と筋田さん。足を掛けたロープを踏み込み、特殊な方法で作った結び目を手で上に滑らすことで、体を持ち上げていく。「足は下へ、結び目は上へ。繰り返す体の動きは、尺取り虫のよう。ここをつかむと10分ほど高さから下にある太

い枝に到達。腰を掛けた。間近に見る緑の葉はみずみずしい。ささざる野鳥と同じ目の高さで、眺める景色が別世界に感じる。マスク姿の子どもたちも同じく夢中だ。高さを競い合っている子がいたら、ブランチのようにして遊んでいる子も。「友達と一緒に

ツリークライミング

アメリカ生まれのレクリエーション。もともとも樹木管理などのために開発された技術。日本でも2000年に普及団体「ツリークランニング」(愛知県瀬戸市)が結成され、全国で体験会を開いている。5000円前後で参加できる。同団体事務局=0561(86)8080。

に外で遊べて楽しい」と卓場陽菜さん(10)も満足そうだった。「見て、海だ」とどの子かが指さした。弾んだ声の先には、玄界灘と能古島があった。



さあ木登りに挑戦だ

- ①登り方を実演する筋田晃司さん。右足を「フットループ」に掛ける
- ②フットループを踏み込み、右手にある結び目を上方へ滑らす
- ③結び目を上へと滑らして、体を持ち上げていく。その後フットループをたぐり寄せ、同じ動作を繰り返す



「木と友達になろう」。登る前に幹に触れる